令和８年度第１回中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会　会議録

日時	令和８年９月３日（木）　午後３時００分～午後４時２０分
場所	旭川市彫刻美術館　研修室
出席者	＜委員＞ 岩永啓司、佐々木幸子、佐藤公哉、鈴木將大、田村貴史、 中村聖司、南部正人、村田典子、宮島聰 ＜彫刻美術館＞ 今野文化振興課長、南雲彫刻美術館長、山崎彫刻美術館主査、 瀬戸彫刻美術館学芸員
会議の公開又は非公開の別	公開
傍聴者数	０人
会議の内容（議題）	１　令和７年度事業報告について ２　令和８年度事業計画について ３　その他について 以下の会議録のとおり
会議資料	・令和７年中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館年報（ＰＤＦ） ・令和８年度旭川市彫刻美術館事業計画（ＰＤＦ）

【会議の内容】

１　開会
２　社会教育部文化振興課課長挨拶
３　会長・副会長選出
　委員より会長・副会長選出については事務局に一任するという意見が出され、承認されたため、会長、副会長を選出した。
以下、会長の進行により、議事を審議する。

４　議事
（１）　議事１「令和７年度事業報告について」
（２）　議事２「令和８年度事業計画について」
（３）　議事３「その他について」

　事務局から、議事１「令和７年度事業報告について」及び議事２「令和８年度事業計画について」一括して報告、説明を行った。

令和７年度事業報告
●委員
24 ページの「実習生等の受け入れ」とはどのようなものか。また、どれほどの期間実習を

行うのか。
●事務局
学芸員の資格を取得するためには博物館実習を行う必要があり、旭川市の場合は博物館や科学館が実習の受け入れ窓口となっているが、昨年度は美術を学んでいる大学生が２名いたため、当館で受け入れて実習を行った。期間については、科学館、博物館、美術館合わせて１～２週間程度行っている。昨年度当館では１日間実習を行った。
●委員
入館者が 20%ほど増えたと思われるが、その理由がぬいぐるみお泊まり会やミュージアムコンサートという新しい企画が影響しているかと思うが、ぬいぐるみお泊まり会の企画はどのようなプロセスで生まれたのか。
●事務局
ぬいぐるみお泊まり会は国立の美術館等で行われており、大変人気がある企画だということで、当館にはカメラが得意な職員やフォトブックの編集ができる職員がいたことから、協力しながらできるのではないかと思い、実施する運びとなった。
●委員
ぬいぐるみお泊まり会の参加者は、何に喜んだのか、そうした反応は美術館の今後についてどのような示唆を与えたのか。
●事務局
ぬいぐるみお泊まり会参加者の方に、ぬいぐるみの引き取り時に館内を自由に鑑賞していただいているが、長い方で１時間以上観ていた参加者もいた。ぬいぐるみは形のあるものなので、ぬいぐるみと彫刻には親和性があるのではないかと感じた。参加者の方から「今度家族連れて来るね」、「お友達にも紹介するね」と言っていただけたり、「ぬいぐるみお泊まり会をまたやってください」という声も多くいただいている。
●委員
何かを学ぼうとするときに、媒介物を使って学ぶという考え方がある。彫刻を学ぼうとするときに、ぬいぐるみを介して学ぶということもあるのかと、おそらく媒介物は人によって違っているし、子どもの場合はぬいぐるみなのかと、勉強になった。
●委員
市民の方がどのように情報を得てイベントに参加されているのか。また、彫刻教室は 10 人～13 人程度で行っているようだが、これが倍になっても対応できるのか教えてもらいたい。
●事務局
情報を得る手段は、広報誌「あさひばし」が圧倒的に多い。ぬいぐるみお泊まり会はＳＮＳで多く広まった。子供向けの彫刻教室等については、学校に直接チラシを持って行き配布してもらった影響も大きいと思う。対応可能な人数については、木彫の場合だと刃物を使うため、事故のリスクを考えると保険を掛けているから 20 人でも良いという訳にはいかないと思うので、10 人程度が限度ではないかと感じる。また、当館の研修室では 20 人程度が限界だと思う。
●会長
今の委員の質問は体験・表現に関する研修やワークショップの受入人数の確認ということか。

●委員
そうです。他の企画を実施して来場者数が増えているという話だったが、１回１回せっかく企画を練り、先生方に考えていただいたプログラムなので、なるべく多くの人に参加してもらえるよう上限を引き上げるのも良いかと思った。新しいものを生み出せば生み出すほど労力が掛かると思うが、１回ずつの集客力が倍になると、全体の底上げにもなるのではないかと思う。
●事務局
ご指摘のとおりだと感じている。設備が整っている、多くの人を受け入れられる別の場所での実施も検討したが、美術館から出てしまったら彫刻を観られないため、教育普及事業の意味合いが薄れるのではないかと考えた。現在、研修室ではいつ来ても工作体験ができる環境を少しずつ整えており、北鎮小学校の児童たちに多く利用いただいているが、観光客や海外の方にも簡単に工作体験ができるよう日々試行錯誤している。
●委員
8 ページの「企画展『宇宙を感じる彫刻展』」について、感じるのは誰なのだろうと考えた。学芸員が感じる、美術館が感じるというようなことでキュレーションするのは一つの方法ではあるが、見る人の感性に対して宇宙を感じると言ってしまうのはどうなのかと疑問に感じた。また、説明文の中に「作品を取り巻く前提知識の不足」や「知識がなくとも」と書いている。学芸員は時として、こんなことをやってもお客様には分からないと言うが、それは違うと私は思っている。学芸員が知らないだけであって、お客様はもっと色々なことを知っている、というような立場から、我々はものを考えなければいけないと思っているため、お客様の知識が不足しているかのようなことを美術館が書くのは誤解を生むのではないかと感じた。続けて、11 ページの善本秀作さんについて、「井波木彫工芸高等職業訓練校校長として後進の育成指導にあたるなど、日本の彫刻会に大きな功績を残した。」とあるが具体的に大きな功績とはなにか。校長として後進を育成したというふうにあるが、大きな功績と言うなら、もっと他のこともあるのではないか。また、彫刻専門の美術館が、ある彫刻家について大きな功績を残したと表現するのであれば、責任があるのではないかと感じた。24 ページの「ぬいぐるみお泊まり会」について、先日関西にある美術館の学芸員の方とお会いした際、そこでもぬいぐるみお泊まり会を行い感じたことがあったそうで、ぬいぐるみお泊まり会に合わせて、対話型鑑賞を行ったところ、普段ならなかなか発言しないような引っ込み思案な子どもが、ぬいぐるみがいると思うとお姉さんやお兄さんの立場で積極的に話してくれるとのことだった。このような効果があるのだと学芸員が感じたというので、もしかしたらぬいぐるみお泊まり会やぬいぐるみを持っての鑑賞にはそのような効果もあるのかもしれないという情報提供をさせていただく。
●事務局
「宇宙を感じる彫刻展」につきましては、館内でも職員間で様々な意見を出し検討しながらチャレンジした結果ではあるが、ご指摘いただいたとおりと感じることも多く今後の企画展について反映していきたい。また、美しいという表現についても何をもって美しいとするのかは、各々の価値観もあり難しい部分があるので、このような企画や表現を考えるときには、しっかりとした説明ができる表現を考えていきたい。
●会長

ご指摘にもあったように、比較的小学生や親子連れ等そういった層への出会いの場所としての体験型コンテンツは充実されているかとは思うが、今お話があったように、この美術館の魅力というのは壮年期層への働きかけもしていただけたらと思う。それから、23 ページの野外彫刻修繕について、年報に挙げられていない作品にも亀裂があり、旭川彫刻サポート隊の方が毎月記録を取って報告されているかと思うが、サポート隊の方たちの調査結果も合わせて載せると今後の改善に繋がっていくかと思う。

●事務局

今後の事業に反映させたい。

令和８年度事業計画

●委員

来館者数を増やすのに何ができるかと考えたときに、広報誌「あさひばし」に載せているとの話があったが、自分も「あさひばし」を見てこういう事業をやるのだなと思いながら見ることはある。その一方で、旭山動物園等は観光客が多く来ているが、彫刻美術館を知らない観光客の方も多くいるように感じているので、ぜひ市民向け広報だけではなく、より広い広報に取り組んでいただきたい。また、私的な話になってしまうが、自分の子どもと、ステーションギャラリーで行われていた「ねんど広場」に参加させていただき、楽しませていただいた。それ以外にも実は彫刻美術館で行われているイベントにも申込みをしたことがあったが、定員がいっぱいで参加できなかったので、他の委員が仰っていたように、定員の枠が広がると美術館に行く機会が増えて良いのではないかと思った。

●事務局

なるべく広く広報をし、イベントの定員枠を増やす方法を模索していきたい。

●委員

来館者が増えることを意識しながらも、メリハリを付けといた方がいいのではないかと思う。例えばプレミアムチケットと、通常のチケットというように。美術館クラブのようなところは、少人数でも継続的に質の高い内容を提供することができるが、一般の来館者が増えるとその対応で疲弊してしまうのではないかと思うので、メリハリを付けるような企画をしていってくれると良いと思う。

●事務局

今年度から新採用で当館に配属された学芸員が大変一生懸命にやってくれてはいるが、仰るとおり何でもやらせるというのは本当に良くないと思っている。仕事の量をうまく調整しながら、効果的な事業や、継続していく事業、統廃合を検討すべき事業など、時代に合わせて運営していきたい。

●委員

旭川彫刻サポート隊の会員を対象に好きな野外彫刻のアンケート調査をすると、《サキソフォン吹きと猫》が一番人気が高いことが分かった。当該作品は冬になると「サキソフォン吹き」の方にはマフラー、「猫」の方には帽子やマフラーが付いていていることがある。衣装は汚れてる様子がないため、マフラー等を付けた人が掃除をしているのだと思うが、他の人が衣装を付けたくても、別の衣装が付けられていたらそれを外して自分のものを付けるという訳にもなかなかいかないと思う。

今私が考えてるのは、12 月になるとイルミネーションの点灯式あると思うが、点灯式前に衣装を募集して、点灯式の際に応募してくれた人に缶バッジや彫刻美術館の入場券を配るなどをし、人集めをやったら良いと思う。期間については冬まつりが２月まであるため、その期間だけ提供された衣装を１週間交代で着用させるなど行えば盛り上がると思う。缶バッジや入場券のような賞品あるいは、先程の話の中でカメラが得意な職員がいるとのことだったので、その方や旭川彫刻サポート隊にもカメラの得意な方がいるので、そのような人たちに写真を撮ってもらい、応募者に渡すなど、そのようなことをやるのも良いと思う。

●事務局

野外彫刻の担当に伝え、違う形になるかもしれないが、何かできるか検討させていただく。

●委員

彫刻美術館は敷居が高いようなイメージがあるかもしれないが、色々なイベントをしていて敷居が低く感じられる取組を行っていることは良いと思う。私の学校の児童たちも普段からお世話になっており「校長先生、あそこはすごく優しくしてくれるんだよ」という話を聞くと、接し方がとても良いのだと思った。ここでの工作体験は図工の授業にも繋がってくるかと思うので、ぜひ引き続きやっていただきたい。また、遠足等で他の学校も春光園に来ていることがあると思うので、彫刻美術館に寄ってもらうという方法もあるかと思う。もう一つ、この前館内を見学させていただいたが、旧旭川偕行社資料室は大変興味深かった。偕行社に興味のある人は多くいると思うので、まずはそこから関心を持っていただき、その流れで彫刻等に目を向けていくよう、事業としてやっていただけたらと思う。

●委員

広報誌「あさひばし」は文字情報のみのため、伝わりづらいこともあると思う。学校へのパンフレットの配布は、視覚に訴えていて子どもたちにはよく伝わると思うので、大人たちの視覚にも訴えられるよう、パンフレット配布方法をもう少し工夫したら良いと思う。そして来館者数について、私は「みゅうず」に入る前にステーションギャラリーで受付をしてたことがあるが、海外の方が多く来館していた。海外の方に本館まで足を向けさせるためにも、「みゅうず」としても人を本館に促せるような企画ができたらと考えている。また、「みゅうず」は立ち上げ時のメンバーのほとんどが退会しており、最近入会した人たちの中には、ただ喫茶をやればいいと思っている方がいるため、「みゅうず」を立ち上げたときの思いや経緯、今後どのように美術館と関わっていくか等などを伝えていけたら良いと思っている。

●委員

14 ページのマーケティング活動について、彫刻美術館のホームページというのは、旭川市文化振興課のページということか。

●事務局

文化振興課のページの中に彫刻美術館のページがある。

●委員

ホームページはどのくらい見られているのか把握されているか。

●事務局

ページごとに閲覧者数を把握できる。イベント申込みのページが一番多く見られている。当館の収蔵品リストも掲載しているが、閲覧者数を伸ばしていきたい。

●委員

コラムはどこで発信しているのか。
●事務局
「美術館だより」というものを作ってホームページで発信しているほか、執筆の依頼があれば可能な限り受けている。地元の情報誌に野外彫刻を紹介する連載をさせていただいているため、そういった取組も充実させていきたいと考えている。
●委員
「事業目標（目指すべき姿）」は、目指すものが明確化されていてとても良いことであり、事業以上に、活動目標みたいなものも大事かと思う。こういったものは、広く見られる年報等にはなかなか反映されない部分もあるかと思うが、令和８年度の年報を作る際は、目標があってそこに向かって何を行ったかということが、文章に書かれていると見やすくなるかと経験上感じた。そして、6 ページの「彫刻を読み解く拠点」というコアコンセプトはとても知的な視点と感じた。感性で自由に感じていただくことばかりではなく、知的に美術の理解を深めていくことを大事にしていくという彫刻専門美術館の気概をすごく感じられた。一方で 6 ページの「鑑賞体験が個別的体験にとどまり」という記載は、個別的体験を否定的に捉えているようにもみえる。ある体験をどう感じるかというのは色々~~あるか~~とは思うが、やはり１人で美術館に来て内省的にものを見るというのもまた美術館の良いところだと思うため、否定的にみることは美術館としてはもったいないと思う。また、「調査研究」という言葉は、「調査・研究」と「調査研究」の２つがあるため、どちらかに表記統一した方が良いと思う。
●事務局
目標については、他館の館長からお話を伺ったり、他美術館で勉強させていただいた上で、事業計画を作成した。個別的体験の表記については、誤解を生まない表記に努めたい。また、年報について、博物館法に則った博物館として博物館登録の更新申請を行うに当たり、博物館法でうたう理念や趣旨、他美術館等の年報を拝見し改めて勉強した。次年度に作成する年報については、計画や目標をしっかり踏まえ、今まで以上に法に則ったものに変えていく必要があると考えている。それと同時に、ご助言いただいた事業目標に沿って何を行ったのかがわかる年報を作成したい。
●会長
社会教育全体でも問題に上がる、利用している方と来館したことのない市民とのギャップをどう埋めていくか、ということはいつも話題になると思う。先程色々と意見をいただいた中で、海外の方など、そういった来られていない方への利用しやすさという意味では、英語の解説を作るといったアクセシビリティという観点では、まだまだできることがあると委員から御意見を伺いながら感じた。
●副会長
私はコロナが終わった後から協議会に参加させていただいているが、その頃は来館者数が元に戻るかというようなことを話していた。最近はコロナ禍前以上に新しい企画や体験型のイベントを行っていて、この美術館が観るところから、体験する場所にもなってきているというのが大変興味深いと思う。私も春光地区で育ってきたため、色々なイベントがあると、ぜひ参加したいという思いがすごくある。私の上世代の方もコンサートなどのイベントも大変楽しみにしていて、イベントに申し込みをしたら定員になっていたという話も聞くた

め、楽しみにしていることが彫刻美術館の中にあるというのはすごく良い状態なので続けてもらえたら大変嬉しく思う。
また、私も大学や高校で講師をしており、ワークショップをやることもあるが、ワークショップは限られた時間と限られた物で、こちらが提供して作り手側は受け身のような形を取ってしまうことがどうしても多いが、ぬいぐるみお泊まり会をはじめ、他の企画でも、自分から参加したい、自分から美術館に物を渡すという形を取るのは、受け身でなく参加者が主体になって動けているのは、ワクワクする部分が出てきて良い形だなと思う。ぬいぐるみお泊まり会のこともテレビで紹介されていたのを観て大変楽しかった。あのように全道でテレビで放映されていると、「旭川であんなことをやっているんだ」と旭川以外の方にも興味を持ってもらえるので、テレビで取り上げていただくのは強いと感じた。また、以前こちらに来た際に外国の方が来ていたのが見えた。最近様々な所に外国の方が来ていると思うので、外国の方が来たときの対応を考えなければいけないと感じている。
●会長
それでは、本日の議案１及び２の承認についていかがか。（一同承認）
会長：それでは、次の議事に移ります。「（３）その他について」ですが、事務局から何かありませんか。
●事務局
ございません。
●会長
それでは、これで第１回中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会を閉会いたします。

５　閉会